

# 平成26年度 学校評価実施報告書

学校名( 京都市立竹田幼稚園 )

## 1 平成26年度 重点評価項目

- ・確かな学力の育成(気持ちや思いを伝え合う活動)・豊かな心の育成(人とかかわることを楽しむ協働活動)・健やかな体の育成(基本的生活習慣の確立)

## 2 1回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定				・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	学校関係者評価		
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	学校関係者評価による意見		
1 確かな学力	言葉などを使って気持ちや思いを伝え合う子どもの育成 親子読書の促進	言語活動等のさらなる充実 年3回の研究保育実施 絵本貸出日の増加と絵本ノートの活用	子どもは楽しく幼稚園生活を送っていますか。・子どもは挨拶を自分から進んでしようとしていますか。 絵本ノートの活用数や絵本貸出の状況	保護者アンケートの結果「あてはまる」は98%、進んで・の項目で81% 昨年より、貸出数が増加	⇒ 保護者は「言葉などを使って気持ちや思いを伝え合う子どもの育成」という今年度の取組を理解し、園や教職員のかかわりを良いと感じている。園と保護者が同じ方向を向いていることは子どもの育ちに繋がる	今後も、取組の充実を園内研修などで考えていき、さらなる充実ができるようしていく。保護者と共に育んでいく姿勢は今後も継続したい。	⇒ 子どもだけでなく、親も共に育っていく幼稚園の取組は共感できる。	⇒ 親も一緒に育ってほしいと願っているので、幼稚園と同じように地域でも親も子も育てていけるようにしたい。
2 豊かな心	豊かな体験活動の充実 人とのかかわりを楽しむ子どもの育成	てんとうむし広場を活用した栽培活動の充実 異年齢のかかわりをいかした取組	子どもは自然のかかわりを楽しんでいますか 保護者の意見	保護者アンケート結果「あてはまる」が96% 預かり保育時の異年齢のかかわりが増えているとの保護者の意見	⇒ 異年齢のかかわりは、預かり保育が増加したため、その時間でののかかわりが昨年より増えた。また、経験を広げるという意味での昔遊びなどを取り入れてほしいとの意見があった。	異年齢のかかわりを活かした取組は今後も計画をし継続していく。また、昔遊びの取組は運営協議会の方にも協力をお願いする。	⇒ 人とかかわることを大切にしたいが、今の時代、子どもが人とかかわることが難しい状況もある。	安心・安全の意味で、危険な場所にのぼりを立てていく。昔遊びなどは小学校でも行っているので、できる取組である。
3 健やかな体	基本的生活習慣の確立	家庭と連携した発達に応じた基本的生活習慣の確立に向けた取組	子どもは持ち物の始末や着替えを自分から進んでしようとしていますか	保護者アンケート結果「あてはまる」が81%	⇒ アンケート結果にばらつきがあったのは、幼児期の特徴である個人差と保護者の価値観の違いがあるためだと考えられた。	アンケートのばらつきは子どもの成長によって回答が変わってくると思われる。発達の個人差は継続して保護者に丁寧に伝えていくことは大事である。	⇒ 基本的生活習慣の一つである挨拶は、大切であると思う。年齢が大きくなるごとにできない子どもが多くなる。	今後も継続して、こちらから進んで挨拶をしていくようにする。
4 独自の取組	保幼小連携の充実 子育て支援の充実 情報発信の充実 保護者との連携	保幼小連絡会の開催、普段の連携 教育相談の実施 園便りと積極的なホームページの更新 保護者アンケートの実施	園は小学校・保育所・家庭・地域とのつながりを大事にしていますか 参加状況・参加者の意見 保護者の意見、幼稚園ホームページのアクセス数 ・園では子ども一人一人が大切にされていますか。・子どものことについてなんでも相談しやすい雰囲気がありますか。	保護者アンケート結果「あてはまる」が100% 参加数は昨年とあまり変わりない ホームページアクセス数が増加している 保護者アンケート結果2項目とも「あてはまる」が100%	⇒ 保幼小の取組はその都度、交流のことだけでなく、なぜ必要なのかなどを保護者に発信している。竹田幼稚園の場合は目によく見える取組なので、保護者が理解しやすいと思う。子育て支援の取組は、内容や発信の方法などを変えたりして取り組んでいるが、参加者が増えているかいない。 保護者との連携100%は、全教職員で共通理解し、取り組んできた成果ではない	保幼小の取組は今後も、なぜ交流や連携が大切なのかを伝えていきたい。子育て支援の取組は、園児獲得において大切な取組なので、他園の取組や他子育て支援提供施設の取組を参考にして、本園の実態を考え合わせた取組を考えていきたい。また、情報発信であるホームページは継続していきたい。 保護者との丁寧な連携も引き続き行っていく。	⇒ 地域の連携を幼稚園も小学校も大切にしていることを、保護者が理解してきている。 ⇒ 地域の児童館や女性会の子育て支援事業もある。その事業に来ているお母さんたちの子育てに対する困りを感じことがある。	運営協議会も幼小で合同で行っているので、協力と連携を今後もしながら、支援していきたい。

## 平成26年度 学校評価実施報告書

### 3 2回目評価

・重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定					・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価		学校名( )	
分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		評価日	評価者・組織	評価日	学校関係者評価
					分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
1 確かな学力					⇒			⇒	
2 豊かな心					⇒			⇒	
3 健やかな体					⇒			⇒	
4 独自の取組					⇒			⇒	

### 4 総括・次年度の課題

--